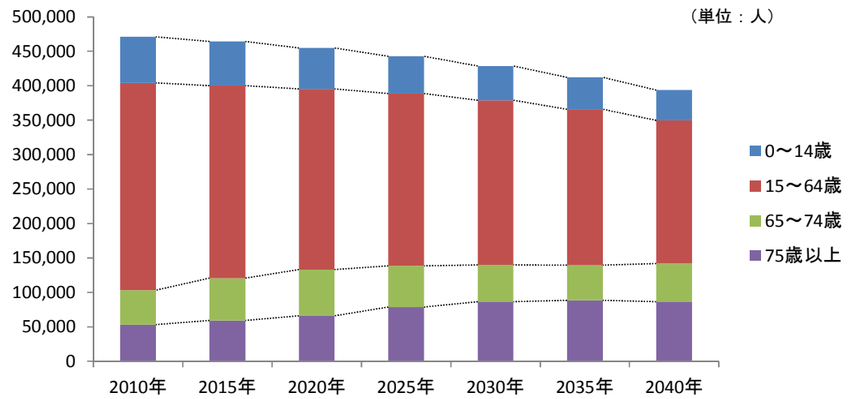
（７）　中東遠 構想区域

必要病床数は前回提示数に基づく

１　人口構造の変化の見通し

・2010 年の人口は約 47.1 万人。2040 年は約 39.4 万人と推計され、約 7.7 万人が減少する。
・65 歳以上人口は 2010 年に約 10.3 万人。2040 年は約 14.1 万人と推計され、約 3.9 万人が増加する。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	66,936	64,126	59,503	54,220	49,641	46,574	44,228
15～64歳	300,809	279,187	262,400	250,264	239,041	226,187	207,798
65～74歳	50,103	61,725	67,175	59,766	53,338	51,140	55,238
75歳以上	53,163	59,149	65,826	78,630	86,625	88,383	86,545
総数	471,010	464,187	454,904	442,880	428,645	412,284	393,809

２　構想区域の現状と課題

○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

・圏域内 20 病院の中に一般病床、療養病床を有する病院は 15 病院ある。病床数は一般病床が約 55%療養病床が約 45%である。
・平成 25 年５月に中東遠総合医療センターが開院し、また、27 年８月に救命救急センターに指定されたことから、圏域の医療環境は大きく変化した。
・平成 26 年度在院患者調査に基づく入院患者の受療状況は、住所地が圏域内の入院患者 2,967 人のうち、810 人(27.3%)が圏域外の病院に入院しており、そのうち約７割の 597 人は西部保健医療圏となっている。

○基幹病院までのアクセス

・２次救急は公立５病院が担っている。
・３次救急は圏域の東南端の御前崎から磐田市立総合病院まで救急車での搬送に時間を要する状況であったが、中東遠総合医療センターが救命救急センターに指定されたことにより、地地理的、機能的な特徴を生かしつつ、磐田市立総合病院は圏域内西部を、また、中東遠総合医療センターは圏域内東部について、救急医療体制を担っている。

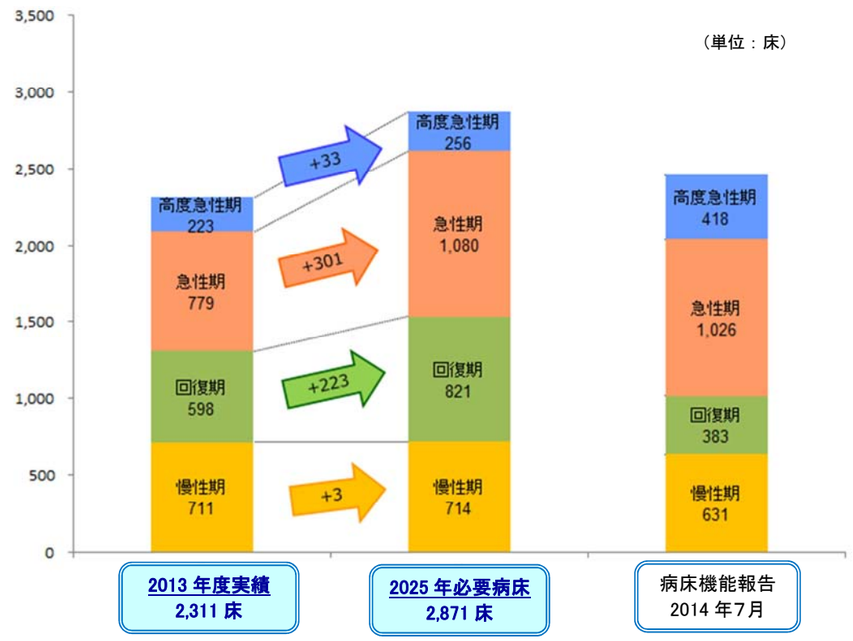
○平成 26 年度以降の状況変化と今後の見込

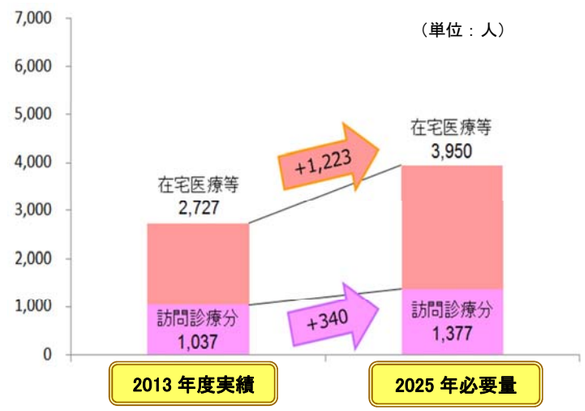
・磐田脳神経外科病院が H26.10.15 から休止中である。(一般 70 床)
・掛川東病院が H27.４に開院した。(療養 240 床)
・袋井市立聖隷袋井市民病院が H26.9 に 50 床（療養）を増床した。また、H28.4 から 50 床（一般）の増床予定である（50 床（一般 50 床）→100 床（一般 50 床、療養 50 床）→150 床（一般 100 床、療養 50 床）。

３　医療需要と 2025 年のあるべき医療提供体制

○2025 年の必要病床数

・2025 年の必要病床数は 2,871 床。2013 年度実績から 560 床の充実が必要になると推計される。
・高度急性期は 33 床、急性期は 301 床、回復期は 223 床、慢性期は約 3 床の充実が必要になると推計される。
・2025 年の必要病床数のうち、高度急性期、急性期、回復期の小計は 2,182 床、慢性期は 714 床。



○2025 年の在宅医療等の必要量

・2025 年に向けて、在宅医療等の医療需要は 1,223 人、うち訪問診療分について 340 人増加すると推計される。
・2025 年の在宅医療等必要量のうち、訪問診療分の内訳は約 35%。